

令和3年度 第2回「京都市地域コミュニティ活性化推進審議会」摘録

日時	令和3年12月17日（金）午後6時～午後7時														
場所	オンライン会議（Zoom）														
出席委員	13名（立木会長，越山副会長，石橋委員，内田委員，宇野委員，大森委員，沖委員，城戸委員，小辻委員，佐々木委員，角谷委員，関谷委員，山本委員）														
欠席委員	2名（石本委員，中野委員）														
傍聴者	なし														
議事次第	1 議題 京都市地域コミュニティ活性化 ビジョンの策定 について 2 報告（1）地域団体などを対象にした「無料出張スマホ講座」について （2）「しみセン つながる ネット」について														
会議資料	<table border="1"> <tr> <td>資料1</td> <td>委員名簿</td> </tr> <tr> <td>資料2</td> <td>京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）の市民意見募集の結果について</td> </tr> <tr> <td>資料3</td> <td>京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）</td> </tr> <tr> <td>資料4</td> <td>京都市×ソフトバンク連携事業「スマートフォン入門・活用講座」</td> </tr> <tr> <td>資料5</td> <td>「しみセン“つながる”ネット」の運用について</td> </tr> <tr> <td>参考1</td> <td>京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）市民意見募集リーフレット</td> </tr> <tr> <td>参考2</td> <td>「しみセン“つながる”ネット」リーフレット</td> </tr> </table>	資料1	委員名簿	資料2	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）の市民意見募集の結果について	資料3	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）	資料4	京都市×ソフトバンク連携事業「スマートフォン入門・活用講座」	資料5	「しみセン“つながる”ネット」の運用について	参考1	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）市民意見募集リーフレット	参考2	「しみセン“つながる”ネット」リーフレット
資料1	委員名簿														
資料2	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）の市民意見募集の結果について														
資料3	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）														
資料4	京都市×ソフトバンク連携事業「スマートフォン入門・活用講座」														
資料5	「しみセン“つながる”ネット」の運用について														
参考1	京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）市民意見募集リーフレット														
参考2	「しみセン“つながる”ネット」リーフレット														

【議事内容】

1. 開会

<事務局>

年末のお忙しい中ご参加いただき，感謝申し上げます。本日は，地域コミュニティ活性化ビジョンに係るパブコメの結果報告と，それを踏まえたビジョン（案）について審議いただく。その他の報告事項もあるのでよろしく願います。

以後の進行は立木会長に願います。

2. 議題 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの策定について

<立木会長>

議事次第に基づき，「議題 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの策定」について事務局より資料の説明を願います。

<事務局>

資料2「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）の市民意見募集の結果」，資料3「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）」に沿って説明

<立木会長>

パブリックコメントへの対応について報告されたが、委員の皆様から意見ををお願いしたい。

<内田委員>

事務局に確認したいのだが、パブコメのまとめとしては、**資料2**の形で公表されるのか？

<事務局>

意見に対する京都市の考え方も添えて公表する方向で考えている。

<内田委員>

主な意見が整理されているが、主ではない意見がどのように扱われるのか気になった。資料の内容は市民が書いたそのままの言葉ではなく、意味的にまとめて集約・編集したのだろうと思われる。実際には市民一人一人が意見を出しているのに、まとめられると心外であると感じる方がいるかもしれない。

一つ一つの意見にきちんと向き合って、どのように扱ったのか公開してほしい。市民からの質問に丁寧に回答することで、市民の学びの機会にもなると思う。

<立木会長>

本質的な意見だと思う。市民意見募集の結果について、145件の意見に対して一つ一つに対応できるか。

<事務局>

この審議会場ではご意見の紹介としてまとめさせていただいたものを説明した。市民への公開の仕方については考えたいと思う。具体的には提示ができていないが、意見をまとめすぎると、せっかくいただいた意見がどこに反映されているのかわかりにくい面もあると思うので、意見を踏まえて考えたい。

<内田委員>

昨年度に取りまとめられた京都市市民参加推進計画のパブリックコメントでは473件の意見があったが、その一つ一つの意見に対して、「計画に反映するもの」「市政運営の参考にするもの」といった4つのカテゴリー分けをしてまとめられた。一人一人の意見に応答する姿勢で考えてほしいと思う。

<立木会長>

今の提案を審議会の議案にするということについて、二人以上の方が同意すれば討議したい。

<小辻委員>

パブコメの内容に誰かが特定できるような記載があったのかどうか確認したい。例えば、誰かを批判しているような内容があったのか。

<事務局>

特定はできない内容である。

<小辻委員>

それであれば、同意する。

<立木会長>

内田委員の提案は、パブコメを提出した一人一人の意見についての対応を記載した文章を作成すべきという意見であるが、いかがか。

<宇野委員>

私も内田委員の提案は良いと思う。そのように対応することによって京都市の姿勢が見え、今後、意見を集める際にもこういった積み重ねが結果につながっていくと思う。

<沖委員>

基本的にはそのようをお願いしたいと思うが、ビジョンに反映する意見が2つあった。何を基準にそのように判断したのか、その点についてもわかるように説明してほしい。

<立木会長>

内田委員の提案にあったように、出された意見一つひとつに対応することが、反映理由も盛り込まれるということだと思うので、内田委員の提案に含まれると理解するがよろしいか。

<沖委員>

それで構わない。

<角谷委員>

内田委員の提案に賛同する。出したコメントをどのように市の方が受け取っているのか、京都市が丁寧に対応することで、ブラックボックスになっていないということを示すということであり、どんな返答であったとしても、真摯に対応してくれていると感じる。

<立木会長>

ここで、この議論については打ち切り、審議会としての意見を確認したい。内田委員の提案に賛同するというのでよいか。

(一同賛同)

<立木会長>

パブコメの全ての意見に対して丁寧に対応してもらいたいということで全会一致で賛同したので事務局に伝えておく。

<小辻委員>

資料2の6頁で「町内会加入を条例で定めるべき」という意見が出ているが、町内会ができた経緯を考えるとなかなか難しい。この意見については細かに対応することを望む。

<立木会長>

「町内会は全員の加入を条例で定めるべき」という意見については、疑問があるということではないか。

<小辻委員>

結構である。

<立木会長>

資料3のビジョン（案）についても意見をいただきたい。

<内田委員>

資料3の29頁に「②京都市市民活動総合センターによるNPO法人入門講座参加者数の推移」のグラフが掲載されているが、これは複数の講座の参加者数を集計した数字である。平成29年に増加しているが、NPOに関心を持ってもらう機会として開催したチャリティーコンサートなども含まれており、数字の精査やタイトルの変更をしないと事実と違う伝わり方をしてしまう。

<立木会長>

NPO活動に対する関心が高まっていることを示しているグラフではあるが、入門講座といっても対象が異なるということだと思う。グラフの見出しをどのように変えればわかりやすいか内田委員から提案いただきたい。

<内田委員>

NPO や市民活動に触れたことがあるという趣旨の見出しであればよいのだが。本文中にも「NPO 法人を目指す個人・団体を対象に」となっている。

<立木会長>

見出しは「入門講座」となっているが、本文が異なる趣旨になっている。グラフの見出しがミスリードしていると思われる。法人を目指す方々は増加傾向にあるので、それにふさわしい見出しに変えてもらえればよい。法人を目指す人たちの講座という意味合いを見出しにする方向で対応していただきたい。

<事務局>

対応させていただく。文言については調整したい。

3. 報告（1）地域団体などを対象にした「無料出張スマホ講座」について

<立木会長>

報告（1）について報告をお願いします。

<事務局>

資料4「京都市×ソフトバンク連携事業「スマートフォン入門・活用講座」」に沿って説明

<立木会長>

説明について意見はないか。

（意見なし）

4. 報告（2）「しみセン つながる ネット」について

<立木会長>

報告（2）について事務局から報告をお願いします。

<事務局>

資料5「「しみセン “つながる” ネット」の運用について」に沿って説明

<立木会長>

関係する内田委員，宇野委員からも現状について追加説明をお願いしたい。

<内田委員>

本年8月以降で20件弱の問合せをいただいた。マッチング可能なものが5件程度あり，そのうち3件が「防災倉庫に何を備蓄すればよいか」「防災マップを作りたい」といった防災に関する内容であった。NPOの紹介に至ったケースもあったが，地域の事情が変わってマッチングに至らなかったものもある。

<宇野委員>

以前，NPO法人ハピネスと吉祥院の高齢者のクラブがコラボして寄付を集めて，多世代が交流できるイベントを企画し，地域団体とNPO法人の連携促進事業に採択してもらった。今も継続して取り組んでおり，良いきっかけをいただいた。

しみセンから，子ども食堂や学生のインターンの受け入れなどいろいろな提案をいただき，私たちの活動を進める上でも刺激になった。私たちの活動を広く知ってもらうことでNPOとしてのやりがいにつながる。

<立木会長>

NPOはNPOのことをよく知っており，そのネットワークを活用するというと，例えば防災に関しては行政ともつながるなど，NPOだけのネットワークではなく重層的にやっていただくとよいのではないかと思う。

<越山委員>

防災の専門家としては，地域活動で防災に取り組んでいただくのはありがたい。ネタとしても動かしやすいテーマだと思う。重層的に重ねたほうが良いので，いろいろなやり方を知っている人から引き出していってつないでいくという中間支援の役割が必要だと思う。いろいろな人が参加できて，つながって取り組むことができるようになれば地域の活性化につながる。

<立木会長>

議事次第については，以上で終了する。

5. 閉会

<事務局>

本日はご出席いただき感謝申し上げます。来年1月にはビジョンを公表し，本市の取組を進めていきたい。今後とも委員の皆様にご助言をいただきたい。引き続き，よろしくお願いする。

以上